



2024年11月14日

各 位

会 社 名 株式会社シンカ  
代表者名 代表取締役社長 江尻 高宏  
(コード：149A 東証グロース市場)  
問合せ先 取締役CFO 石川 祐介  
(TEL. 03-6721-0415)

### 通期業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、2024年3月27日に公表した2024年12月期（2024年1月1日～2024年12月31日）の業績予想を以下のとおり修正することを決議しましたので、お知らせいたします。

1. 当期の業績予想数値の修正（2024年1月1日～2024年12月31日） （単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	1,353	171	151	133	43円83銭
今回修正予想(B)	1,219	73	44	22	7円30銭
増減額(B-A)	△134	△97	△106	△111	—
増減率(%)	△9.9%	△56.9%	△70.4%	△83.3%	—
(ご参考) 前期実績 (2023年12月期)	1,040	101	98	108	40円45銭

2. 修正の理由

2024年12月期において、当社は当社のサービスである「カイクラ」の営業上の注力業界を自動車業界および不動産業界に定め販売活動を行ってまいりました。また、営業上の注力業界ではない大企業については販売パートナーと、スモールビジネス事業者についてはOEM事業者などと協力し、複数のユーザー獲得チャネルを用いて幅広い営業活動を展開しております。

このうち、営業上の注力業界である自動車業界、不動産、及び既存の販売パートナーや既存のOEM事業者への販売活動は概ね順調に推移しておりました。しかしながら、新規に獲得した販売パートナーとの協業の立ち上がりについて、当社にとって新しい販売代理店の形式である2次代理店の活用に関し、契約締結や業務フローの構築に想定以上の時間を要し当初想定よりも遅延していること、また新規のOEM業界の開拓について、新規OEM事業者の開拓は順調に進んだものの、OEM事業者側のシステム開発計画の変更に伴い販売開始が遅れた案件や、OEM事業者側の経営計画の変更に

より一部のOEM提供がとん挫した案件が発生した影響などで計画どおりに進まず、アクティブユーザー拠点数を当初の予想どおりに増やすことができなかったことなどから、前回の業績予想を発表する時点で見込んでいた2024年12月末時点でのアクティブユーザー拠点数が5,998拠点から5,605拠点となる見込みです。その結果、初期売上189百万円、月額売上927百万円が、それぞれ初期売上185百万円、月額売上が870百万円となる見込みです。

また当初は、カイクラが実装しているSMS自動送信機能を大口のユーザーへ訴求しSMS利用量を増加させること、及び一部のOEM事業者においてこの機能をOEM事業者のサービスに組み込んでもらい、OEMユーザーのSMS利用量を増加させることで従量課金売上の増加を見込んでおりましたが、当該大口ユーザー側への説明やSMS利用シナリオなどの作成は進んだものの、当該大口ユーザーの社内業務フローの変更に想定以上に時間を要したこと、及びOEM事業者においては当該機能に関するシステム開発が想定よりも遅延したことなどから、SMSをはじめとした従量課金売上が当初の想定を下回ったため、前回の業績予想を発表する時点で見込んでいた従量課金売上231百万円が159百万円となる見込みです。

これらの結果、売上高が前回発表の予想よりも134百万円減収となり、1,219百万円となる見込みです。

売上原価率や販売費及び一般管理費などについては概ね前回発表の予想どおりとなることが見込まれるものの、売上高の減収を受け、営業利益は73百万円（前回発表の予想から97百万円の減益）、経常利益は44百万円（前回発表の予想から106百万円の減益）、当期純利益は22百万円（前回発表の予想から111百万円の減益）となる見込みです。

（注）上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。

以 上